

未来に残す年賀状文化

1 年賀状の歴史

年賀状を出す習慣は、かなり古く平安時代にさかのぼるといわれています。明確な起源は不明とされているものの、平安時代後期には人々は対面を主としながらも、年始のあいさつを手紙によって交わし合うことがあったという記録が当時の手紙文例集に残っているそうです。

また、当初は貴族など一部の人の間でしか行われていなかったこの習慣も、江戸時代には飛脚制度などの発達によって広がりを見せ、1871（明治 4）年に近代郵便が創業され、東京大阪間で郵便業務の取り扱いが開始されると、徐々により多くの人へ浸透するようになりました。

さらに、郵便はがきの登場・1873（明治 6）年、私製はがきの認可・1900（明治 33）年といった事業や制度の変遷を経て、年賀状を出す習慣はより身近なものとなっていきました。

現在発行しているような、お年玉くじ付きの年賀はがきが最初に発行されたのは 1949（昭和 24）年 12 月 1 日です。お年玉くじが付いたのは、一人のお客さまのアイデアがもととなり、年始にくじの当せんを確認することは、今に至るまで 70 年以上続く新年の伝統となっています。

日本郵便は、未来に残す年賀状文化のため、引き続き皆さまにご利用いただける年賀はがきを発行していきます。



1949(昭和 24)年

お年玉くじ付年賀はがき発行のポスター

(郵政博物館収蔵)

2 「Action! 伝統文化」の取り組みについて

年賀状文化をはじめとした伝統文化の振興と支援を目指すため、日本郵便は「Action! 伝統文化」の取り組みに協力していきます。

「Action! 伝統文化」に関する詳細は、以下の URL からご確認ください。

〈参考〉 <https://dentou.yomiuri.co.jp/>



伝統文化

3 年賀はがきなどにおける取り組み

- ・ 年賀状による年始のごあいさつ
- ・ 年賀はがき地方版のデザインに伝統工芸品等を採用
- ・ 年賀切手のデザインに伝統工芸品の玩具を採用
- ・ お年玉賞品 2 等に地域の工芸品を採用